南極地域観測統合推進本部　外部評価委員会（第 30 回）
議事の記録

１．日時：　　令和７年７月 11 日（金）１０：００～１１：２０

２．場所：　　オンライン開催

３．出席者：

（委員）

	五十嵐　道　子	フリージャーナリスト
	兼　原　敦　子	キャノングローバル戦略研究所　研究主幹
	田　中　康　夫	元日本郵船株式会社　専務経営委員
◎	中　田　　薫	三洋テクノマリン株式会社拠点統括本部　主席技師長
	中　村　　尚	国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター　シニアリサーチフェロー
○	藤　倉　克　則	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門海洋生物環境影響研究センター　センター長
	松　本　高　志	国立大学法人北海道大学大学院工学研究院　教授
	宮　脇　健太郎	明星大学理工学部総合理工学科　教授
	三　好　由　純	東海国立大学機構名古屋大学宇宙地球環境研究所統合データサイエンスセンター　センター長
	山　崎　俊　嗣	国立大学法人東京大学大気海洋研究所　名誉教授

（◎主査、○主査代理）

４．議 事：

（１）三宅文部科学省研究開発局海洋地球課長より挨拶があった。

（２）事務局より委員改選の報告があり、新任の委員より挨拶があった。

（３）以下の議題について審議がなされ、資料２－１～資料２－４は原案のとおり了承された。なお、意見があった事項等に関しては、後日、主査と事務局とが検討した対応についてメールで各委員に説明した。

≪審議事項≫

１．南極地域観測第Ｘ期６か年計画の概要について

２．南極地域観測第Ｘ期６か年計画の評価方法について

３．その他

主な意見は次のとおり。

（審議１.南極地域観測第Ｘ期６か年計画の概要について）

特になし

（審議２.南極地域観測第Ｘ期６か年計画の評価方法について）

【兼原委員】

私の聞き落とし、あるいはこれから説明があるのかもしれないが、評価方針は委員として作業するにあたりコアになる部分のため、間違いのないよう細かい点も含めて四点お尋ねする。一点目。まず資料２－１に評価の観点がある。この点は毎度議論になっているが、評価にあたって柔軟性をお認めいただけるか、というのが一つ目の質問である。例えば有効性と効率性との区別は、評価の仕方、あるいは評価対象の項目によってどちらにも入り得るように思われる。そうしたことに鑑みて、評価の観点については、柔軟性をお認めいただけると評価がしやすい。また当然 ABC という評価を付けた理由については、評価者は理由を記載することによって説明責任を果たすので、評価の観点は、一定程度には柔軟に考えてよろしいか。

二点目は、今回は６か年のうち前期３年が終了した上での後期に向けた評価であると理解している。それを反映するように、資料２－１に「３か年が終了したから進捗状況を確認する」という記載がある。そうであるとすると、必ずしも評価の観点の中にぴったり該当する記載がなくても、評価の観点として進捗状況を確認するのは重点になるのではと思うが、そういう理解でよろしいか。

三点目は、資料２－１の評価方針において、第Ⅸ期事後評価での「指摘事項」のフォローアップも含まれている。この第Ⅸ期事後評価での指摘事項を再度教えていただき、そのフォローアップにあたるような評価をすることが重点評価と理解してよろしいか。関連して、資料２－１の別紙にて、下線部分を重点的に考えるという御提案だが、評価方針では３か年過

ぎた時点での進捗状況確認という点と、第Ⅸ期事後評価での指摘事項のフォローアップという点は、どちらも重点評価であると理解している。下線部分は、これらの重点評価を反映したものと考えてよろしいか。

四点目は、資料２－１の設営計画等に関しては、「計画通りに進まなかったものの、適切な措置を講じることにより、概ね計画通りの実績・成果を上げている」という項目があるが、観測計画等には、この記載はない。これは観測計画等にはない、設営計画等に独自の視点という理解でよろしいか。

【岡田海洋地球課課長補佐】

まず一点目、評価の観点における柔軟性については、兼原委員の御指摘のとおり柔軟に評価していただければ結構かと思う。

二点目、評価方針において、進捗状況の確認も重点評価ではないのかという御指摘についても、おっしゃるとおりしっかりと評価をしていただきたい。

三点目の、第Ⅸ期での指摘事項のフォローアップという点は、指摘事項を示していなかった事務局の落ち度である。申し訳ない。どのような指摘があったかは、評価様式の中での「第Ⅸ期評価での指摘事項とその対応」項目に明記される予定。また、別紙の下線部分については、評価方針の①に「特に次期６ヵ年計画に向けて議論すべき観点を見据え、項目ごとに重点評価軸を設け、点検を行う」と記載しており、この「項目ごとに重点評価軸を設ける」に対応するところを案として示したというところである。内容が分かりにくいようであれば修正するので、御意見をいただきたい。

四点目、観測計画等にはなく設営計画等にのみある項目については、設営計画で考えると特に昭和基地の整備、新しい建物の建設、観測機器の整備などが想定されると思っており、これらはやはり予算等々の影響によりなかなか計画どおりに進んでいないものもあるかと推察した。こうしたものは計画どおりに進んでいなかったとしても、観測計画を支えるものとして、観測計画に影響を及ぼさないように適切な措置が講じられている場合にはこういった評価をしてはどうか、と項目を記載した次第である。観測計画にも当てはまるのかどうかは少々考えが及ばなかったが、もし観測計画においてもこうした項目で評価をしたほうがよいということであれば追記も検討したい。先生方の御意見を頂戴できればと思う。

【兼原委員】

評価方針における進捗状況の確認や、第Ⅸ期での指摘事項のフォローアップはやはり重点項目になるので、資料２－１別紙の下線部分に収まっていなかった場合は、自分で忖度し

いずれかの評価要素の中に組み込んで評価して、かつ、評価理由の説明によって、説明責任を果たすということで、自分なりに処理させていただきたいと思う。

【五十嵐委員】

確認と質問を二点お願いしたい。評価項目を大括りにすることで、例えば定常観測だと様々な機関が関わっているが、代表してどこかの方が説明し資料も全体をまとめていただくという理解でよろしいか。この場合、これまで様々な機関から報告をいただいたときに書式が少し異なったりしていて、なるべく統一してほしいとお願いしていた点が、大括りにすることで統一されるかと思う。これまでこの委員会で、研究項目の中には人材育成が大事という話を常にしていたが、人材育成について記載があったりなかったりする項目があったのが気になっており、過去指摘もさせていただいたと思う。観測計画等において見落としているかもしれないが、いわゆる若手の人材育成や国際協力による人材育成といった項目がないように見受けられたのが気になったので、それはどこで評価されるのかというのが質問の一点目。

二点目は、兼原委員から御指摘があったが、設営計画等にだけある項目というのが少し気になった。第Ⅸ期の計画の場合は後半コロナの影響があったので、評価にあたってもコロナに関する但し書きのような、こういった中でもよくやった、という点を考慮するという前提で評価したと思う。今回の３年間においては特別考慮すべきことはなかったのか。例えば大きな気候変動によってこの部分が無理だった、というような考慮すべき点はこちらでも把握できているとありがたいと思う。

【岡田海洋地球課課長補佐】

まず一点目、様式については今回お示しした様式を各機関に統一的に作成いただく形で進めることを考えている。評価の大括り化によって、例えば定常観測についてはどこが代表して説明するのかという御質問だが、資料２−５別紙に示すとおり、評価の単位としては大括り化をするが、ヒアリング等で説明いただく場合には各機関の担当者に出席いただき、資料もそれぞれで作成の上それぞれから説明いただいて質疑応答。評価を付けていただく際には大括りにして一つの項目として評価いただくというような形を考えている。また観測計画等の評価の観点に人材育成がないというのは御指摘のとおりかと思う。設営計画等では、計画自体で特出しで書かれていたので、評価の観点においても人材育成と記載した。観測計画等の評価の観点に人材育成も取り入れるかどうか、事務局で改めて検討させていただきたい。

【五十嵐委員】

御説明いただきよく分かった。人材育成についてはぜひ検討いただきたい。

【岡田海洋地球課課長補佐】

二点目、今回の３か年でコロナのような特に考慮すべきことはなかったのかという点について、再度国立極地研究所にも確認するが、コロナが始まったころのようにこれまでとは異なるやり方をしなければならないような事態は、今のところ事務局として把握できていない。万が一何かあれば、改めて先生方にお知らせする。

【五十嵐委員】

個別の報告についても、それぞれ苦労された点があったかと思うので、それについてはこれまでどおり、こういったことがあったが逆にこうした取り組みをした、という点を強調していただく書き方がよろしいかと思うので、その点もどうかお願いしたい。

【藤倉委員】

二点あり、一つ目は各参画機関が作成するロードマップについてである。当委員会は計画の進捗評価が重要なミッションと理解した。各機関が作るロードマップは、第Ｘ期が始まったときにロードマップが作られ、そのロードマップは毎年この委員会で照会され、時にはリバイズしたこともあるかと思う。リバイズしたものはどのようにオーソライズされていくのかということを伺いたい。

二点目が、実績や主な成果といったものを記載する資料があると思う。観測は淡々と計画どおりにやったというものでもいいかと思うが、こと、成果に関しては、基本的には科学論文で公表されたものをベースに成果として記載されていくという理解でよろしいか。そうである場合、それぞれの成果に、例えばこうしたことが分かりこういうことに繋がった、という根拠、リファレンスとなる論文を入れつつ、その論文も一緒に記載していただいたほうが非常に評価しやすいと思っているが、そのようなことは考えているか。

【岡田海洋地球課課長補佐】

一点目、ロードマップについては御指摘のとおり６か年計画を作成した際に作られている。リバイズについては、現時点では毎年度当委員会で確認することにはなっておらず、中間評価の際に、委員の先生方の評価も踏まえて必要であればリバイズをし、ここでオーソライズする。６か年計画自体は本部総会で決定しており、リバイズした場合にはその内容を総会に諮る流れになっているため、今回中間評価を先生方にしていただきリバイズが必要と思われた場合には、そういった御意見をいただければと思う。

二点目の成果については、藤倉委員のおっしゃるとおり、論文公表された成果は、その根拠論文等が分かるようにしたほうがよいと思うので、各機関に依頼する際に事務局からもお願いしたいと思う。

【山崎委員】

兼原委員の四点目と全く同じで、設営に限らず、研究観測、研究現場においてもやってみると思うようにいかない、トラブルが起きたというのは日常茶飯事だと思う。資料に書き込むかどうかは別として、書いていなくても、どのようにトラブルを対処し、どのように補ってきたかということは評価の観点の一つで重要なことだと思うので、そういう点も自己点検にはきちんと書いていただきたい。

【岡田海洋地球課課長補佐】

いただいた御意見をもとに、資料に追記するかどうか検討させていただきたい。

【中田主査】

では、御指摘いただいた点の中で修正すべきところは修正し、修正し切れない部分も重要な点だという認識を持っているので、それを織り込んで評価をすることでお願いしたい。

【岡田海洋地球課課長補佐】

本日様々な御意見をいただいた。修正する際にはその内容を中田主査と御相談させていただき、当委員会として御承認いただくかどうかは、中田主査に御一任いただくことでいかがか。御意見をいただきたい。

【兼原委員】

事務局及び主査への御一任について異論はないが、当会議の議事録に係る運びを失念したのでお尋ねしたい。議事録案を作成いただき、照会にかけた上で確定するということは、皆様、自分の発言、他の方の発言を確認し了承するという過程なので、その過程を済ませた上で、事務局と主査の御判断で必要な修正を加え、今日の資料の改訂版の確定をしていただくのが納得しやすい方法かと思う。

【小野寺文部科学省海洋地球課極域科学企画官】

全くそのとおり進めたいと思うが、議事録が完成するまでの時間と、御確認いただく時間、及び当評価のスケジュールの兼ね合いがあるので、例えば本日いただいた御指摘や御質問をこちらで一旦整理し、その部分だけ先に先生方に御確認をいただきたいと思う。その際、御質問や御指摘に対する事務局の修正案のようなものを示すので、それを御確認いただいた上で進める形はいかがか。議事録は議事録として追って御確認いただく。

【兼原委員】

異論なし。主査の判断にお任せする。

【中田主査】

その方向で考えたい。

【五十嵐委員】

今後のスケジュールの確認だが、８月のヒアリング後、評価を提出した後はメール審議になるという理解か。こういった形で議論する場はもうないことになるのか。中間評価の決定に至るまでにどのぐらい集まるのか、または集まらないのかというところを把握していなかった。

【小野寺文部科学省海洋地球課極域科学企画官】

事務局では、ヒアリングが終わった後に少し合議というか、記憶の新しいうちに意見交換を続けてしていただくとよろしいかと考えていた。

国立極地研究所にて実施いただいた自己点検評価を、ヒアリングの前に外部評価委員会の皆様にお送りする予定でいるので、それを御覧になっていただき大体の評価を想定いただく。その後ヒアリングを聞いていただき、その結果、想定していた評価のままなのか、少し上げるのか下げるのかというようなことをお考えいただき、ヒアリングが終了した後に、全体で合議し意見交換をしていただく、と考えている。その後で評価を個々に出していただきたい。提出いただいた評価を事務局でまとめ、こちらでもヒアリング終了後の意見交換の様子も踏まえた上で、評価結果の案をまとめたいと考えている。このまとめたものにメール審議で御意見をいただくことはどうかと考えていたのが資料２−５のスケジュール案である。

【中田主査】

これまで評価書案については議論が白熱した覚えがあるため、メール審議でないほうがよい気がするがいかがか。

【兼原委員】

私も同じ記憶がある。それぞれ個人で責任を持って理由説明を伴って評価をしたのち、全体でその評価でよいかどうかの議論は白熱し時間がかかるし、時間をかけるべきものだと思う。一見メール審議のほうが早そうだが、白熱するときは、対面で議論したほうが早いこともあり得る。そうした開催様式も含めて検討の上、決定していただきたい。

【五十嵐委員】

兼原委員の御意見のとおり、評価書案については非常に時間がかかってしまうところで主査や事務局には苦労いただく点ではあるが、きちんとした報告としてまとめ後半に生かしていただくためにも丁寧な対応が必要。メールだけだと少々私としては不安な部分があると思っている。

【小野寺文部科学省海洋地球課極域科学企画官】

では９月中旬はメール審議ではなく合議として、この後日程照会をして調整させていただく。どうしても都合がつかないようであれば、８月 28 日 29 日のヒアリングの時間などを使うことも御相談させていただきたい。

【田中委員】

28 日 29 日のヒアリングについては出先から接続することになりそうだが、様々な兼ね合いで部分的に入るのはかまわないか。途中から入って途中で抜けるということでもよろしいか。

【小野寺文部科学省海洋地球課極域科学企画官】

問題ない。可能な範囲で御対応いただければと思う。

【田中委員】

では、ヒアリングについては参加、不参加というよりも、開催日が近づいたら何時頃から何時頃まで入る予定といった御連絡をしたいと思う。

（４）事務局から次回は令和７年８月にヒアリングの開催を予定している旨の連絡があった。

――了――